

# 第1回新しい長崎県づくり懇話会（R5.2.8）における意見の概要

## 「新しい長崎県づくり」のビジョンの基本的な方向性に関する意見

- 長崎県内の圏域や市町は、自然環境や歴史など、他の地域の多様性とは全然違う姿の多様性があり、この多様性を活かすことが他県との差別化につながるのではないかな。
- 県の施策も県内の均一化を指向するのではなく、多様性を指向すれば他との差別化につながるのではないかな。
- 長崎県は他県に比べて多様性が目に見える県だと思うが、その多様性を活かし合えているのか、お互いに学び合えているのかは考える必要がある。
- 高齢者も若者もみんなが社会参画して活躍の場があり、それぞれの立場で生き生きと暮らせる社会が一つのあるべき姿ではないかな。
- 多様な人と意見交換しながら新しい価値を生み出すオープンイノベーションを促進すべきではないかな。
- 県内の地域間競争ではなく、お互いを学び理解し、地域や人を繋いで新たな価値を生み出す協業、協働を促進すべきではないかな。
- 県内の人々が過ごしやすい、県外の人が入ってきやすい、女性が活躍しやすい、県外へ出てもまた戻って来られる、新しい技術を実験できるなど、いろんなことを含めて、いかに寛容な社会を作れるかが重要ではないかな。
- 寛容な社会というテーマは日本全体の問題ともいえるが、長崎が先んじて取り組むことで、国に対しても発信できるチャレンジになるのではないかな。
- ウェルビーイングの考え方を取り入れるべきではないかな。
- 利便性を中心にした考えをアメニティ・快適性に変えていくことで、ウェルビーイングの考え方に繋がっていくのではないかな。
- ウェルビーイングとは、いろんな人が自己実現できる社会といえるのではないかな。
- SDGsやESG投資が根付いていく社会づくりを目指すべきではないかな。
- 長崎県ではこういう人生、生活が送れて幸せになれるというメッセージをもっと出す必要があるのではないかな。
- 社会的インパクトのあるものの可視化（指標化）にチャレンジしてはどうか。フォーカスしていることは何かということを可視化して、メッセージとして共有することで、そういう暮らしがしたい人達が集まってくるのではないかな。

これらの意見から、ビジョンを検討する際の参考となるキーワード

- ・多様性
- ・共創
- ・寛容
- ・ウェルビーイング
- ・持続可能性
- ・自己実現

# 第1回新しい長崎県づくり懇話会（R5.2.8）における意見の概要

## 子育て（女性活躍）

- 長崎県には女性の活躍を阻む企業風土、地域風土が残っていると感じる。女性のキャリアアップと子どもを産み育てることを両立できるような風土に変えていかないといけない。

## 学び

- 学力重視の教育ではなく、体験を通して感動を生むような教育の提供、クリエイティブな人材の育成などを大事にしていくべきではないか。
- 県外の人に、長崎だったら子どもにいい教育が提供されるから行ってみようと思われるような、長崎独自の教育のあり方を考えるべきではないか。
- ふるさと学習の推進や体験教育を含めて、子どもを中心とした地域コミュニティ形成をしていくことが大事ではないか。
- 長崎県の自然環境を活かした教育や子育てをもっと進めるべきではないか。
- ふるさと学習により、子ども達は地元のことを調べ、愛着を持つようになってきていると感じており、これをもっと鮮明に進めるべきではないか。
- 今の若者達は、ふるさと学習だけではなくSDGs等についてもよく勉強しており、むしろ大人達が変わっていかないと若者達は将来に希望が持てないのではないか。大人達が変わっていく姿を見せることが大事なのではないか。

## 観光

- メタバースを活用して交流人口の拡大につなげてはどうか。例えば、教会群に興味を惹かれた時に、メタバースでその教会を訪れて感覚的な体験をすることで、実際に現地に行きたいと思ってもらえるようなことができればいいのではないか。

## 交流

- 高齢者も、自分達の生活は若者達によって支えられていることを自覚して、次世代育成力を高めていく地域になってほしい。
- 次世代育成力を高めていくために、高齢者世代、現役・若者世代、子ども世代が交流連携できる場を設けることができればいいのではないか。

# 第1回新しい長崎県づくり懇話会（R5.2.8）における意見の概要

## スタートアップ

- 長崎県の一番不足しているところはワクワク感や期待感、チャレンジといいながらチャレンジさせていないところ。
- トライ＆エラーができる環境づくりと資金面での支援が必要ではないか。
- 地域外のリソースに頼るだけでなく、地域内の人を中心に県内外や世界とつながって取り組みを進められるようなことを考えられたらいいのではないか。
- 福岡市の外国人のスタートアップビザよりも強い施策を打ち出して、海外の優秀な高度人材が集まってくるような環境づくりを進められればいいのではないか。
- 進学等で県外へ出て活躍している人材を迎え入れるシステムづくりのほか、ゼロからのスタートではなく既存企業の二次創業やM&Aによる取組みなど、目線を変えることで長崎の独自色を出せるのではないか。
- 長崎県は交通の便が良くないが、逆に、だからこそ各地域に活発なコミュニティが存在しており、それが強みになっているのではないか。そういったコミュニティが、知恵と工夫で、自分達が楽しくなることを続けていくことが、人を呼び込むことにつながるのではないか。

## 健康

- 肉体的な健康の充実だけでなく、社会的な健康という意味も含めて、「健康」はキーワードになる。

## 安全・安心

- 不自由を感じない暮らしのために、コミュニティの維持をしっかりとっていく必要があり、例えば小学校区単位で地域を維持する仕組みなどを考えられないか。

## デジタル

- 通信網のハード面の整備とあわせて、高齢者を含めてすべての人がインターネットを使いこなせるなどソフト面もしっかりと進めていく必要がある。
- 誰かが孤独になってしまうことを生み出さないためのツールとしてインターネットを活用していくことが、人の健康な暮らしを支えることの助けになるのではないか。

## 戦略的情報発信

- 都会的な魅力を高めるよりも、長崎でしか体験できないことの魅力を磨き上げ、発信すべきではないか。